

実用新案公報

庁内整理番号 6553 — 36

④公告 昭和51年(1976)10月7日

(全2頁)

1

⑤車輪付き買物バック

②実 願 昭4 6—7 2 2 1 5

②出 願 昭4 6 (1 9 7 1) 8月1 2 日

公 開 昭4 8—3 0 2 2 1

④昭4 8 (1 9 7 3) 4月1 3 日

⑦考 案 者 出願人に同じ

⑦出 願 人 黒田正敏

相模原市旭町2の7

⑦代 理 人 弁理士 丹生藤吉 外3名

⑤実用新案登録請求の範囲

バック本体1の下端に車輪2を有する一対の支持片3を本体1に対して出沒するように回動自在に枢支し、該支持片3に作用させたばね4に抗して突出位置で支持片3を受止める受支部材5に緩衝ばね6を作用させ、さらに車輪2と並行して突出する支脚7を前記バック本体1の底に倒立自在に枢着し、この支脚7にも安定ばね8を縮設し、また本体1の上端に提手9を取付け、手押杆10を伸縮可能に装着した車輪付き買物バック。

考案の詳細な説明

本考案は路上を引いて使用する車輪付き買物バックの改良に関するものである。

この種のバックは品物を入れて運搬するときは便利であるが、空のときはかえつて車輪や手押杆が邪魔になり、持歩くのに体裁も良くない。

本案はこの点に着目し、車輪と手押杆を出沒自在に取付けて、特に空のまま運搬するときの不体裁を除き、また使用時に手を離しても安定して佇立し、その実用価値を増進させたものである。

しかして前記のことを充足するため本考案はバック本体1の下端に車輪2を有する一対の支持片3を本体1に対して出沒するように回動自在に枢

2

支し、該支持片3に作用させたばね4に抗して突出位置で支持片3を受止める、受支部材5に緩衝ばね6を作用させ、さらに車輪2と並行して突出する支脚7を前記バック本体1の底に倒立自在に枢着し、この支脚7にも安定ばね8を縮設し、また本体1の上端に提手9を取付け、手押杆10を伸縮可能に装着した車輪付き買物バックである。なお図中11は支持片3が没するとき入り込む凹欠、12は支持片3、3の枢軸、13は支脚7の枢軸、14は受支部材5の案内管で螺杆15を挿通して筒状受支部材5に固定しそのまわりに緩衝ばね6を位置させる、16は車輪軸を示す。

本考案は上記の構成であるから、買物を入れないときは手押杆10を本体1内に収縮させ、また車輪を有する支持片3も第1図鎖線で示したように倒して本体1より突出しないようにして置けば嵩張らず持運びも楽にでき、殊に体裁が良い。また使用するときには迅速容易に手押杆も車輪も突出できるので従来この種バックに較べ利用上の効果は増大する。さらに本案においては支持片3に緩衝ばねを付した受支部材を設けてあるので手で押して車輪を転動させるとき、支持片3に作用させたばね4と相俟つて車輪に無理を与えず円滑に運搬できる、また支脚7も突出させると2つの車輪と支脚により本体は手を離しても安定して立てかけて置くことができ実用上頗る便利である。

図面の簡単な説明

第1図は本案車輪付き買物バックの側面図、第2図は正面図、第3図は要部の縦断側面図である。
1……バック本体、2……車輪、3……支持片
4……ばね、5……受支部材、6……緩衝ばね、
7……支脚、8……安定ばね、9……提手、10……手押杆。

